

# 児童の主体的な学習姿勢を生み出す指導の在り方

～単元出口の児童の具体的な姿を明確にした単元指導の構想手順と評価方法について～

南姫小学校 新宅武徳

## 1 授業改善の視点

(個別指導) 単元末における評価方法と、理解不十分な児童への指導の方法

## 2 具体的な実践

### (1) 単元をつらぬく課題に帰結する単位時間のねらいの設定 (単元構想の手順)

#### ①単元入り口の児童の意識・考え

- 自分のからだのことに深く考えたことがない。
- 自分のからだの中はいったいどうなっているのか。

そこで、次のような単元の出口における児童の姿をイメージする。

#### ②単元出口の児童の意識

私のからだには、生きていくためにこんなにすばらしいしくみやはたらきがあるんだ。

この出口に到達できるよう、『単元を貫く課題』を設定する。

#### ③単元を貫く課題

自分のからだには、生きていくためにどのようなしくみがあるのだろう。

「呼吸」→「消化・吸収」→「血液循環」→「生命維持のためのしくみ」という視点で、人の体のしくみやはたらきについて追究できるように単元を構成する。各視点の学習をまとめる際、常に『単元を貫く課題』に帰結する。また、実感を伴った理解を促せるよう、可能な限り、下記のように「自分の体」について個別実験を主体とした追究活動を行う。そうすることにより、単元入り口で、あまり意識してみたことのなかった自分の体について、改めて理解を深め、単元出口の姿に迫ることができると考えた。

#### ④自分の体についての追究活動の実践

- 第2時 自分の呼気に含まれる気体  
(石灰水を用いた個別実験)  
気体検知管による酸素の体積の割合を調査 (グループ実験)
- 第4時 だ液の働き (個別実験)
- 第6時 自分の脈拍や拍動の回数 (個別実験)
- 第8時 自分のからだで内臓の位置を示す。  
(個別実習)

### (2) 『単元のまとめ』の分析による単元末における評価と理解不十分な児童へ指導方法

単元末に、「この単元を通して学んだことや感じたこと」という内容でノートにまとめを書く時間を確保した (約15分)。

先述した「単元出口の児童の意識」に達成できているかどうかを、その内容分析により評価した。また、教師が単元当初にイメージした姿に達成が不十分であった場合、朱書きにより、単元で学習した内容について考える視点を与えるようにした。

#### A 達成できていると評価する内容

／単元を学習して(感想)  
わたしが、いろいろはんびりくりに  
たことは、ごんぷんに、だ液が  
びびり、どうに、変わることをま  
でんぷんは、だ液によって、わ  
だしたちのよく知っていると  
くかわるな、とてもひびり  
りしたのです。そしてその養分  
か、体に吸収されて、いろいろ  
物を、くやして、体から出す  
なん、うなしたちの体はま  
けなまと思ひました。  
この勉強で、自分たちの体のこ  
とをよく知り、きまをもつて、  
いろいろなことを学ぶことができま  
した。よく知ったか、か、た、  
さんのきまをもつたので、た、  
さん請うて、さうすると、またま  
もんをもつて、きけんしたり

半数以上の児童が、自分のからだについて改めて知ることができたことに対して満足感を得ることができた。さらに、疑問を持つことができた児童に対しては、その解決方法についてアドバイスを朱書きするようにした。

#### B 達成が不十分であると評価する内容

単元を学習して(感想)  
私は、心臓から血液をおくって  
いることを初めて知りました。  
この単元で一番心に残ったこと  
は、からだのいろいろな部分がそれ  
ぞれがうはたらきをしているこ  
とです。  
この授業を通して、これからも  
からだのそれぞれのなたらきを調  
べたいです。この単元は、難しい  
言葉ばかりだ、たけど、い、い、  
うげんめい勉強して、生活にいか  
ていきたいです。  
体の中の臓器の名前やしくみは、生活でずっと  
知っていると得意に思っている。感想を書いた時にぜひ  
覚えるために、い、い、い、勉強、する、に、挑戦、してみよう。

心臓など様々な臓器のはたらきについて学習できたようだが、自分の体という意識が弱かった。そこで、心臓が血液を送っているようすが、自分の体で実感してみよう、朱書きで伝え、後日個別指導で実感できたか児童に確認をした。

## 3 実践を振り返って考えられること

単元を貫く課題の設定やその視点での評価を意識的に行うことで、教師は、各単位時間を『自分に備わった、体のしくみやそのはたらきのすばらしさ』という一貫した姿勢で指導にあたることができた。そして、児童に、「自分の体をもっと調べてみたい」という主体的な姿を生み出すことができた。